

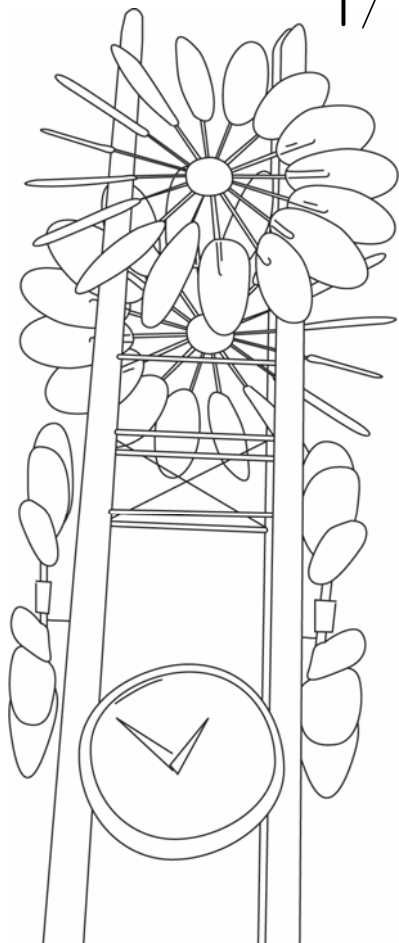
## < 第四回 >

# 3.11と防災コミュニティを語り合う集い

谷中コミュニティーセンターが、谷中・防災コミュニティセンターになるんだって？

## みんなで検証！建築ワークショップ

1/100サイズの敷地模型をさわって考えよう！  
防災コミュニティセンターのカタチ。



まもなく新しくなる谷中・防災コミュニティーセンターが、便利で安心して利用できる頼もしい(!?)施設になるように、じっくり考えてみませんか？

ワークショップではグループに分かれて、模型を片手にみんなで話しながらコミュニティセンターを組み上げていきます。みんなの思いが詰まった理想的な施設をつくり上げてみましょう。

<目的> ワークショップから区へ提案書を提出します。

- <流れ>
- ① まずはみんなで「いざというときに役立つ、コミュニティーセンター」を考えてみます。
  - ② 考えた建物を、敷地のどこに建てるのがいいか検証しましょう。

【アドバイザー】岩本／薩田／建築家の仲間と学生ボランティアチーム

お申し込みは <http://yanakabousai.jimdo.com/> または 090-9492-0075(西川)まで

# 2011年 9月10日(土) 18:00～

## 谷中コミュニティーセンター 1階／大広間

### 住所：台東区谷中5-6-5(初音の森 となり) 電話：03-3824-4041

主催：谷中防災コミュニティを考える有志の会(※) 代表：西川直子/藤倉英世/森まゆみ  
お問い合わせ：090-9492-0075(西川)

※ 私たちは、3.11の震災をきっかけに、谷根千エリアの防災とコミュニティを考える有志の仲間です。

入場無料 カンパをお願いします。会場費や印刷代に使わせていただきます。



<第三回>3.11と防災コミュニティを語り合う集い

# 谷中の防災 学習会&ワークショップ

～これだけは知っておきたい、谷根千の災害対策入門～

ご報告

さる8月20(土)午後、谷中コミュニティーセンターにおいて、「これだけは知っておきたい、谷根千の災害対策入門」と題した、防災に関するワークショップを開催し、延べ40人以上がご参加いただきました。その様子をご報告します。

## 1 紙芝居「稲むらの火」から、防災、復旧・復興を考える

講師は、前首都大学東京/都市プランナーの吉川さん。前半の学習会は、吉川さんより日本初の防災教育の教材といわれている昭和16年製作「稲むらの火」という紙芝居が上演からはじまりました。

物語を聞いて、災害時に命を守るために必要な行動指針は何か、または災害後の復旧・復興に何を備えておかなければいけないか、参加者で意見を出し合いました。



### ●物語「稲むらの火」とは？

1854年におきた安政南海地震で津波が起きた際、村の庄屋が機知に富んだ方法で村人を高台へ誘導し、その後の復旧・復興でも大いに活躍したという史実を元に、小泉八雲が物語(英文)としてまとめたもの。この作品に感銘を受けた当時の小学校教員の推薦により、昭和12年より10年間、小学校教材に掲載された。

## 2 災害時の「公助」を学ぶ

続く時間では、地震対策の基礎知識や行政が行う災害時応急対策に関する講義が行われました。避難所の種類やその管轄や対応の区分など、数々の知識を学びました。



## 3 ゲーム形式で被災地域の住民行動を考え、谷根千地域にあてはめながらグループ・ディスカッション

後半はワークショップです。まずは、参加者が4つのグループに別れて、二択のクイズに答えていきます。クイズのテーマは、「地震発生直後から時間が経過する各段階で、被災地域に住む大多数の住民はどんな行動をとると予測されるか？」というもの。

いくつかのクイズに答えた後、その結果をもとに災害や震災に備えた意識や必要な物品・設備は何か？ 谷根千地域ならばそれらをどう反映させるか？などをディスカッションしました。

どのグループも活発な意見交換が行われ、参加者それぞれが、谷根千での具体的な災害対策を意識することができました。

